

複式指導資料第32集（平成27年度）
岩手の小規模・複式指導ハンドブック



複式指導のための資料集

～6つの実践事例と10のQ&A～



平成28年3月
岩手県教育委員会

目 次

- ・はじめに
- ・実践事例 1（算数 3， 4 年）久慈市立小袖小学校 …………… 1
 - Q1 ずらし？ずらさない？
 - Q2 わたりの回数は少ないほうがよい？多くてもよい？
- ・実践事例 2（理科 3， 4 年）山田町立轟木小学校 …………… 3
 - Q3 間接指導・直接指導をどう工夫すればよいですか？
 - Q4 個別指導で、子供が受け身になってしまう？
 - Q5 リーダー学習・ガイド学習の効果的なやり方は？
- ・実践事例 3（国語 1， 2 年）洋野町立角浜小学校 …………… 5
 - Q6 国語で、言語活動を導入するときの工夫は？
- ・実践事例 4（算数 5， 6 年）葛巻町立江刈小学校 …………… 7
 - Q7 算数の教科書を開いて活用させるか？閉じさせるか？
 - Q8 学力差が大きいときは、どう授業展開したら…？
- ・実践事例 5（算数 5， 6 年）奥州市立大田代小学校 …………… 9
 - Q9 黒板と座席、板書についての注意点はありますか？
- ・実践事例 6（算数 3， 4 年）雫石町立橋場小学校 …………… 11
 - Q10 両学年の内容をどう組み合わせればよいですか？
- ・協力校、作成協力、参考文献

はじめに

近年、少子化・人口減少等が進む中で、平成27年1月27日に文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適性配置等に関する手引き～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」が示されました。学校統合による適正化とともに、小規模校を存続させる場合に、教育の機会均等化とその水準の維持向上という義務教育制度の本旨に鑑み、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策の重要性が指摘されています。

特に、複式学級の場合には直接指導と間接指導を組み合わせ、複数学年を教員が行き来しながら指導する必要がある場合が多く、さまざまな課題が生じ得るといわれています。

また、本県では、30%近い小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適應する能力を育てる「人間形成」のために、欠くことのできない視点となっています。

今年度は、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じて、ふさわしい方法を柔軟に選択できることを目指し、複式指導等改善講座等の指導主事による提案授業、第31回東北地区へき地教育研究大会岩手（久慈）大会の公開授業などの6つの実践事例と、県内の先生方からお寄せいただいたご質問等を10のQ&Aに整理し、複式指導資料を5年ぶりに発刊することといたしました。

この指導資料が、複式学級を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援するハンドブックとして活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室





実践事例1 (算数3,4年)

- ・第3学年：はしたの大きさの表し方を考えよう（東京書籍「新しい算数3下」P.11）
- ・第4学年：小数のしくみを考えよう（東京書籍「新しい算数4下」P.42～43）

共通導入・共通終末を意図的に取り入れた事例です。問題の正答を早めに確定させ、どのような処理法を用いたのかを話し合うことで、【まとめ】までをスピーディーに展開します。終末では、それぞれの学年の学習を共に振り返り、板書の比較や感想の交流から、学習内容の理解を深めるようにします。

段階	第3学年	授業者	第4学年
導入	<p>ジュースが0.8 Lあります。そのうち、0.3 L飲みました。ジュースは何Lのこっていますか。</p> <p>・式 $0.8 - 0.3$</p>	<p style="text-align: center;">共通導入</p>	<p>ジュースが3.64 Lあります。そのうち、2.76 L飲みました。ジュースは何Lのこっていますか。</p> <p>・式 $3.64 - 2.76$</p>
展開	<p>【学習課題】【指導目標】 小数のひき算の計算のしかたを考えよう。</p> <p>・予想 答え0.5 L</p> <p>・(理由の説明) 0.1 Lをもとにすると、0.8は8、0.3は3で、8-3だから、5になる。この5は、0.1の5つ分だから $0.8 - 0.3 = 0.5$となる。</p> <p>【評価問題】 <考え方> 「0.6-0.2でも、同じように計算できるか確かめましょう。」</p> <p>・(理由の説明) 0.1をもとにすると、0.6は6、0.2は2で、6-2だから、4になる。この4は、0.1の4つ分だから $0.6 - 0.2 = 0.4$となる。</p> <p>【まとめ】</p> <p>・0.1をもとにして考える。 ・小数のたし算と、同じように計算する。</p> <p>次の計算をしなさい。</p> <p>① $0.8 - 0.4$ ② $0.9 - 0.4$ ③ $0.9 - 0.6$ ④ $0.6 - 0.2$ ⑤ $0.3 - 0.1$ ⑥ $0.5 - 0.1$ ⑦ $0.7 - 0.2$ ⑧ $0.6 - 0.5$ ⑨ $0.4 - 0.3$ ⑩ $0.8 - 0.1$</p> <p>次の問題に答えなさい。</p> <p>水がポットに0.7 L入っています。0.5 L使うと、のこりは何Lですか。</p>		<p>・予想 答え0.88 L</p> <p>・筆算 $\begin{array}{r} 3.64 \\ -2.76 \\ \hline 0.88 \end{array}$</p> <p>・みんな同じ答え(0.88)になった。</p>  <p>・(理由の説明) 0.01をもとにすると、$3.64 - 2.76$だから、88になる。この88は、0.01が88こ分だから、$3.64 - 2.76 = 0.88$となる。</p> <p>【評価問題】 <考え方> 「6.85-4.96でも、同じように計算できるか確かめましょう。」</p> <p>・(理由の説明) 0.01をもとにすると、$6.85 - 4.96$だから、189になる。この189は、0.01が189こ分だから、$6.85 - 4.96 = 1.89$となる。</p> <p>【まとめ】</p> <p>・0.01をもとにして考える。 ・小数のたし算と、同じように計算する。</p>
終末	<p>【学習の振り返り】 学習を振り返って、分かったことなどを書きましょう。</p> <p>次時につながる問題に取り組む。</p> <p>1-0.4の計算をしてみよう。</p>	<p style="text-align: center;">共通終末</p>	<p>【学習の振り返り】 学習を振り返って、分かったことなどを書きましょう。</p> <p>次時につながる問題に取り組む。</p> <p>3-0.42の計算をしてみよう。</p>

・共通点から学習課題を設定する。

・答えを早めに確定させる。

・もう1問取り組み一般化を図る。

・ここまで約15分。

・計算ドリルの時間をたっぶりとする。

・学習課題に立ち寄り、ノートに記述させる。

・問題の数値は変えず、場面を3年生にそらえて改題。

・3年生との相違点をもとに自力解決を進める。

・間接指導なので、焦点を絞った交流にする。

<写真>
問題について、自分たちの考えをまとめる。

・もう1問取り組み一般化を図る。

・ここまで約30分。

・両学年の学習を板書でも振り返る。

【学習の振り返り】

- ・たし算と同じように、0.1をもとにしたら、計算できることが分かった。(3年)
- ・たし算と同じように、0.01をもとにしたら、計算できることが分かった。(4年)

【学習の振り返り】

- ・もとにする数(0.1や0.01)を考えて、小数を整数と見て計算している。(両学年)
- ・「もとにする」という考えは、これからの勉強でも使えるかもしれない。(両学年)



ずらし? ずらさない?

<先生方の声から>

- 今年度初めて複式学級の担任となりましたが、単式のようにやっていて、例えば、算数では練り合いの場面で時間が足りず、「ずらし」を使っていました。どうも自分の中でスッキリしないものがあります。もっと子供たちを活躍させながら、それを見る場面を考えていきたいのですが…。

全国的には「ずらし」の授業が一般的といわれていますし、県内ではいわゆる「共通導入」の授業も多く行われています。どちらにもメリットとデメリットがあるので、まずは、教材の本質をしっかりとおさえ、**本時のねらい**を明確にすることが大切です。

その上で、それぞれを指導方法の選択肢の一つとして、「**授業者が直接指導したほうがよい学習活動は何か?**」、「**両学年で共通に扱う内容や方法はあるか?**」などに配慮し、どちらが有効かケース・バイ・ケースで考えてみてはいかがでしょうか。

<「ずらし」のある展開例>

下学年	授業者	上学年
共通導入 (有or無)		
1. 課題把握	↓	4. 適用・発展
2. 課題追究		1. 課題把握
3. 解決・定着		2. 課題追究
4. 適用・発展		3. 解決・定着
共通終末 (有or無)		

<「ずらし」のない展開例>

下学年	授業者	上学年
共通導入 (有or無)		
1. 課題把握	↓	1. 課題把握
2. 課題追究		2. 課題追究
3. 解決・定着		3. 解決・定着
4. 適用・発展		4. 適用・発展
共通終末 (有or無)		



わたりの回数は少ないほうがよい? 多くてもよい?

<先生方の声から>

- 学年間を行き来しようとしても、**すんなりといかない**し、そのための段取りに時間がかかってしまいます。もっと細かく配分して何度も「**わり**」をしてもよいのでしょうか?

「ずらし」や共通導入・共通終末等の有無によっても異なりますが、複式学級の指導は適切な「**わり**」があってこそ成立するものです。したがって、単なる回数の問題としてではなく、その結果として、**間接指導の学年の子供が安心して主体的に学習できているか**という視点で捉えることが大切です。

「**わり**」が少なすぎて、学習活動がストップしたり、子供たちが指示待ちになったりするようでは困りますし、だからといって、学習活動を細切れにして「**わり**」を増やすという指導も避けたいところです。単式学級の机間指導で声かけするのと同様に、見通しをもって主体的に取り組む子供の学習状況を見取り、安心して活動に取り組めるよう、適切に声かけする「**わり**」なら、むしろ多くてよいという意見もあります。

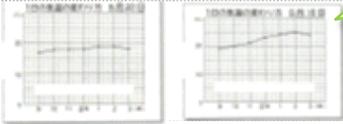


- 小袖小学校の実践では、両学年の理由を説明する活動を**直接指導**できるように、本時では効果的に「**ずらし**」を取り入れています。
- 「**わり**」は最小限で、板書やカードを工夫し、間接指導でも、子供たちが主体的に学習に取り組めるようにしています。
- 終末の**学習過程**を振り返ったり**学習内容を価値付けたりする活動**等に時間をかけています。

実践事例2 (理科3,4年)

- ・第3学年：どれくらい育ったかな (東京書籍「新しい理科3」P.34～36)
- ・第4学年：天気と気温 (東京書籍「新しい理科4」P.30～33)

本時の目標の達成状況(評価規準)を見取る場面で、直接指導の時間を確保するために、学習過程に「ずらし」を取り入れたり、リーダーカードを活用したりしています。両学年ともに互いの考えを交流する場面には授業者が支援に入り、共通点や相違点を明確にしたり、整理したりしています。

段階	第3学年	授業者	第4学年
導入	<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「葉の数」や「葉の大きさ」を調べたことや植物の成長に驚いたことを発表する。 <p>2 問題をつかむ</p> <p>【学習課題】【指導目標】</p> <p>植物のからだは、どんなぶぶんからできているのだろうか。</p>	共通導入	<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「晴れの日」「雨の日」「くもりの日」と天気の変り方について学習の見直しを確認する。 <p>【学習課題】【指導目標】</p> <p>1日の天気の変り方は、天気によってちがいがあのだろうか。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・植物のからだは「葉」「くき」だけでできているのか課題意識をもつ。 <p>3 予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何があるのか話し合いをする。 <p>4 計画しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察の手順を確認する。 <p>5 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの(一人ずつ異なる植物)について観察する。 <p><リーダーカード></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水道の水で土を洗い落とす。 ② 新聞紙ではさみ、水を切る。 ③ 黒画用紙の上ののせる。 ④ 記録カードに書く。 	共通	<p>2 結果の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフを記入する。 <p><リーダーカード></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教科書を見てグラフを完成する。 ② グラフを互いに確認する。 ③ 黒板のグラフを完成させる。 ④ 結果から分かったことをノートに自分の言葉でまとめる。 <p>3 結果の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で結果を確認する。 <p>4 考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果から分かったことを確認する。 ・自分の考えを発表する。 ・友達の考えに対して、自分の考えを付け加える。 <p>【評価場面】<技能></p> <p>測定した結果を、折れ線グラフに表すことができる。</p> <p>【まとめ】</p> <p>晴れ日の気温は、大きく変わります。雨日の気温は、あまり変わりません。</p>
閉	<p>【評価場面】<技能></p> <p>葉、茎、根の形の特徴を的確に捉えて記録することができる。</p> <p>6 考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表する。 ・友達の気付きに対して、自分の考えを発表する。 <p>【まとめ】</p> <p>植物のからだは、どれも葉、くき、根からできています。</p>	共通	<p>5 考えよう</p>  <p>【評価場面】<思考・表現></p> <p>天気と1日の気温の変化を関連付けて考察し、自分の考えを表現することができる。</p>
終末	<p>【学習の振り返り】</p> <p>「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>	共通終末	<p>【学習の振り返り】</p> <p>「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>

・個々の気付きを学級全体で共有し、学びへの興味・関心を高める。

・観察の目的や手順について、紙板書や演示等で、1つ1つ確認する。

・個々の主体的な活動の場を設定する。

・机間巡視で評価しつつ、個に応じた指導・支援をする。

・自分の考え
→友達の考え
→共通点・相違点
→まとめの流れを支援する。

・「ずらし」で、前時までに問題をつかみ、予想、計画、観察を行った。

・教科書巻末の資料を活用し、自学につなげる。

・自分の考え
→友達の考え
→共通点・相違点
→まとめの流れを支援する。

・学びを活用する問題で、言語活動の充実を図る。

【学習の振り返り】

・植物のからだには、「葉」と「くき」と「根」のぶぶんがあり、「根」は広がっていることが分かりました。

【学習の振り返り】

・気温の変り方で、その日の天気を、だいたい予測できることが分かりました。

Q3

間接指導・直接指導をどう工夫すればよいですか？

<先生方の声から>

- ・私は、**間接指導**後の**直接指導**で、子供の様子をつかみきれず、上手くいかないことが多いのですが、どのような工夫の仕方があるのでしょうか？

複式学級の指導では、**間接指導の充実**が求められます。その際、後で子供の様子をつかみやすいように、**選択式・短答式・記述式**などを組み合わせて、**間接指導**の子供の活動を可視化する工夫を取り入れた実践も見られます。さらに、算数では、教科書を積極的に活用した取組も進められています。

また、**直接指導**をどう工夫するかもポイントの1つです。**本時の重点として必ず直接指導しなければならないことは何か、それを子供の学習過程のどこに位置付けるか、そして、いかに子供の学習状況を適切に見取って評価するか**などが考えられます。合わせて、**いかに子供の目的意識を高め、主体的・協働的な活動にするか**という視点も大切にしたいところです。

Q4

個別指導で、子供が受け身になってしまう？

<先生方の声から>

- ・複式学級では、個の状態が見えやすく、つい**個別指導**ばかりをしてしまい、子供が受け身になったと感じています。主体的に取り組む子供を育てたいのですが…。

多くの先生方が日頃から実感されているように、「**少人数だから、全員の子供の学習状況を把握しやすい**」ことは確かに長所ですが、一人の子供だけ**直接指導**すれば、その他の子供たちが**間接指導**になってしまう短所もあります。また、授業者が**個別指導に頼りすぎると、子供の学習が受け身になってしまう**場合があることも、以前から指摘されています。

そこで、例えば、**正答できた子供とつまづいた子供が混在したときこそ、間接指導で学び合うチャンス**と捉えて、子供の学習状況を把握した上で、協働的に取り組ませてみるなど、敢えて個別指導の場面を減らしてみることも、指導の手立ての選択肢としてもっておきたいところです。

Q5

リーダー学習・ガイド学習の効果的な進め方は？

<先生方の声から>

- ・間接指導の活動等がどうしてもうまく進みません。**リーダー学習**や**ガイド学習**などの効果的なやり方は？ どうやって子供を鍛えたらよいのか？…など、知りたいことがたくさんあります。

リーダー学習や**ガイド学習**は、どちらも主体的・協働的な学習のための一般的な手法ではありますが、「**子供がまだ育っていないので…**」、「**毎時間ガイドを準備するのは負担が大きい…**。」という声も聞かれます。もちろん、1つの指導パターンで毎日の授業づくりを考えるのは無理がありますから、子供の実態と教材、本時のねらいなどにより適切に使い分けることが大切です。

また、教科書を開いて活用させることで、教科書自体を「**学びのガイド**」のように用いた実践も行われています。



- ・轟木小学校の実践は、**リーダーカード**が工夫され、**記録カード**や**グラフ**、**ノートの記述**などで、**間接指導**の学習を可視化し、**直接指導**で**評価**できるようにした提案授業です。
- ・少人数のメリットを活かし、例えば、**3年生の観察では一人ずつ異なる植物を観察させる**など、子供が主体的に学習できるように工夫しています。



国語で、言語活動を導入するときの工夫は？

<先生方の声から>

- ・国語の授業で、子供たちに**言語活動**を導入する際に、必ずモデルを提示するようにしています。提示するモデルをいろいろ工夫してみたいのですが…。

位置付ける**言語活動**の特徴や、**指導事項**がらせん的な扱いか反復的な扱いか等に応じて、子供が学習の目的意識をもてるように、例えば、いつも完全なモデルを提示するのではなく、時にはゼロモデルで既習事項を活用させたり敢えて不完全なモデルを提示したりすることも考えられます。

その後の言語活動がマニュアル化してしまわないよう、**自己選択**や**自己決定の場**を位置付けたり**協働的な活動**や**見直し・振り返りの活動**を取り入れたりして、主体的な学習を保障することが大切です。

<国語科（1，2年）【B 書くこと】の単元計画の例>

	第1学年	第2学年
教材名	「おはなしをつくろう」(東京書籍 1年下)	「お話のさくしゃになろう」(光村図書2年下)
主な目標	◎ 主人公の名前や、出来事について想像を広げて書くことができる。(Bア)	◎ お話の出来事を簡単な構成を意識して書くことができる。(Bイ)
言語活動	「ももたろう」の昔話を基に自分でオリジナルの昔話を書く	教科書の絵を基にしなが、「中」の部分は自由な発想で展開を考え、自分でお話を作る。
第一次	1	○ 図書委員長からのビデオメッセージを見て、自作のお話を全校のみんなに紹介することを知る。 ○ 教師のモデルを聞き、イメージをもつ。 * 1年生…「ももたろう」の昔話を基に昔話を作り、全校児童に読み聞かせをする見通しをもっている。(観察・発言) * 2年生…絵を参考にしながら冒険のお話を作り、全校児童に読み聞かせをする見通しをもっている。(観察・発言)
	2	○ 教材文を通読し、物語を書く手順をとらえ、学習計画を立てる。
第二次	3	○ 主人公を考える、お話の前半を書く。 (主人公を考える手立て) ・身近な果物や野菜などから生まれた「○○ひめ」「○○たろう」 ・教科書のモデル文を参考にする。
	4	○ 「はじめ」と「おわり」の絵を見て、主人公の設定を決め、「はじめ」と「終わり」を書く。 ○ 挿絵を見て、どんな生き物がどこに住んでいるのかを想像させ、友達同士で十分に話し合せてから決めさせる。 ○ 「中」では、どんな事件が起きるのかを考えさせる。
	5	○ 自分が今まで読んだお話や経験したことなどを参考にしながら、主人公が、大きくなってどんなことをするのかを考え、お話の後半を書く。 行動を考える手順 ① 場所 ② 誰と会って、何をするか ③ 何と会って、何をするか
	6	○ 「中」の展開を考え、メモを書く。 「中」を考える手順 ① 事件が起こる ② 助けてくれる人物や道具に出会う ③ 解決する
第三次	7	○ お話の後半の続きを書き上げる。 ○ 主人公のしたことや話したことを読み返す観点として、書いたお話を見直し、必要に応じて誤字脱字を直す。
	8	○ メモを基に、メモの出来事のつながりを踏まえ、つなぎ言葉を用いながら「中」を書く。 ○ 「中」を考える手順を読み返す観点として物語の展開を見直し、必要に応じて誤字脱字を直す。
第三次	7	○ 題名を決めて、挿絵を描く。 ○ 1年生同士で読み合う。
	8	○ メモを基に、メモの出来事のつながりを踏まえ、つなぎ言葉を用いながら「中」を書く。 ○ 「中」を考える手順を読み返す観点として物語の展開を見直し、必要に応じて誤字脱字を直す。
第三次	7	○ 1年生と2年生でお話を聞き合い、感想交流をする。 ○ 友達のお話のよいところについて観点を基に聞き感想を伝え合う。
	8	○ 書いた絵本を読み返し、展開にびったりな題名を決める。 ○ 挿絵を描く。
第三次	8	○ 全校に読み聞かせをし、学習を振り返る。



- ・角浜小学校の実践では、**言語活動**の特徴を踏まえて、**自己選択**や**自己決定の場**を位置付け、**協働的に見直したり振り返ったりする活動**を取り入れています。
- ・課題解決の場面で、両学年の子供たちの活動を見取ることができるよう、自由度のある**「わたり」**を位置付けています。



実践事例4 (算数5,6年)

- ・第5学年：小数のわり算を考えよう (東京書籍「新しい算数5上」P.48～63)
- ・第6学年：分数のわり算を考えよう (東京書籍「新しい算数6」P.58～72)

類似単元指導で、共通導入・共通終末を取り入れた事例です。葛巻型「教科書を開いて考えさせる授業」により、テンポよく展開します。特に、6年生の自力解決とまとめをつなぐ指導を重視し、単なる計算ドリルではない数学的な考え方の【評価問題】として、説明する活動などに取り組みさせます。

階	第5学年	授業者	第6学年
導入	<p>1 リボンを2.5 m買ったなら、代金は300円でした。このリボン1 mのねだんはいくらですか。</p> <p>・式 $300 \div 2.5$</p> <p>・わる数が整数なら商を求めることができる。</p>	共通導入	<p>1 $\frac{3}{4}$ dLのペンキで、板を$\frac{2}{5}$ m²ぬれました。このペンキ1 dLでは、板を何m²ぬれますか。</p> <p>・式 $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$</p> <p>・わる数が整数なら商を求めることができる。</p>
展開	<p>【学習課題】【指導目標】 わる数を整数にして、計算のしかたを考えよう。</p> <p>(みほさん) 2.5 mは、0.1 mの25こ分。 $300 \div 25$ □ 300 (円)</p> <p>0.1 mのねだん… $300 \div 25$ 1 mのねだん… $(300 \div 25) \times 10$ $300 \div 2.5 = 300 \div 25 \times 10$ = □ 答え □ 円</p> <p>(ひろきさん) リボンの長さが10倍になると、代金も10倍になるけど、1 mのねだんは変わらない。 300 300×10 (円)</p> <p>0.1 2.5 25 (m)</p> <p>25 mの代金… 300×10 1 mのねだん… $(300 \times 10) \div 25$ $300 \div 2.5 = 300 \times 10 \div 25$ = □ 答え □ 円</p> <p>【まとめ】 小数でわる計算は、整数の計算でできるように考えると、答えを求めることができます。</p> <p>▲ 1.5 mのホースの重さをはかったら、270 gでした。このホース1 mの重さは何gですか。</p> <p>【評価問題】 <数学的な考え方> 「$270 \div 1.5$の計算のしかたを、みほさんやひろきさんのように説明しなさい。」</p> <p>・(みほさん) $270 \div 1.5 = (270 \div 15) \times 10$</p> <p>・(ひろきさん) $270 \div 1.5 = (270 \times 10) \div (1.5 \times 10)$</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>7.56 ÷ 6.3を計算してみよう。</p> <p>・ $756 \div 63 = 12$? ・ $756 \div 63 \times 10 = 120$? ・ $756 \div 63 \times 100 = 1200$? ・ およそ $8 \div 6$ とみても、1と少し? ・ ひろきさんの考えで、 $(7.56 \times 10) \div (6.3 \times 10)$ $= 75.6 \div 63 = 1.2$?</p>	共通導入	<p>(しんじさん) $\frac{3}{4}$を整数になおして計算する。 $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = (\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4)$ $= (\frac{2}{5} \times 4) \div 3$ $= (\frac{2}{5} \times 4) \div 3$ $= \square \times \triangle \div \square$ $= \square \times \square$ $= \square$</p> <p>(みほさん) わる数を1にすれば、簡単に計算できる。 $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = (\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}) \div (\frac{3}{4} \times \frac{4}{3})$ $= (\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}) \div 1$ $= \frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ $= \square \times \triangle$ $= \square \times \square$ $= \square$</p> <p>★ 前ページの2人の考えの、最後の式を比べてみましょう。</p> <p>【まとめ】 分数でわる計算は、わる数の逆数をかけます。 $\frac{b}{a} \div \frac{c}{d} = \frac{b}{a} \times \frac{d}{c} = \frac{b \times d}{a \times c}$</p> <p>▲ の計算をしなさい。 ① $\frac{3}{8} \div \frac{2}{7}$ ② $\frac{8}{9} \div \frac{3}{4}$ ③ $\frac{3}{5} \div \frac{4}{5}$</p> <p>【評価問題】 <数学的な考え方> 「①の計算のしかたを、みほさんのように説明しなさい。」</p> <p>① $\frac{3}{8} \div \frac{2}{7} = (\frac{3}{8} \times \frac{7}{2}) \div (\frac{2}{7} \times \frac{7}{2})$ $= (\frac{3}{8} \times \frac{7}{2}) \div 1$ $= \frac{3 \times 7}{8 \times 2} = \frac{21}{16}$</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>$0.4 \div \frac{3}{4}$を計算しなさい。</p> <p>・ $0.4 \times \frac{4}{3}$? ・ $0.4 \div 0.75$? ・ しんじさんの考えで、$1.6 \div 3$?</p>
開	<p>【学習の振り返り】 ・ 小数のわり算を、0.1が何こ分か、わり算の性質とかでやるのがわかりました。 ・ どちらもわる数を整数の計算にしてやるのができた。</p>	共通終末	<p>【学習の振り返り】 ・ 分数÷分数でも、わる数を整数にすれば簡単にできて、逆数を使えることもわかった。 ・ わり算の性質を使うと計算できることがわかったし、逆数でやるとすぐ計算できた。</p>

教科書の空らんに直接書き込ませる。

みほさんやひろきさんを参考に自力解決させる。

わり算の性質を使っていることに気付かせる。

約30分でまとめる。

教科書の計算問題を、考え方の評価問題にする発問。

しんじさんやみほさんを参考に自力解決させる。

わり算の性質を使っていることに気付かせる。

□○△の印をかき込ませて、まとめにつなげる。

教科書の計算問題を、考え方の評価問題にする発問。



算数の教科書を開いて活用させるか？閉じさせるか？

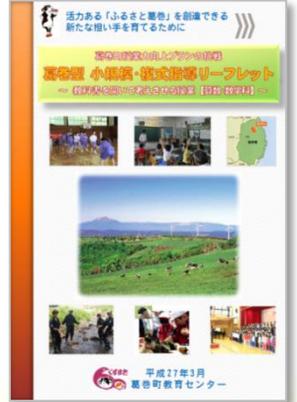
<先生方の声から>

- ・複式学級でも、子供の問題解決力を高めるために、学習課題や見通し、**自力解決**、グループ（学年）交流などを大切にしています。教科書を開かせると、子供が考えなくなると思うのですが…？
- ・**葛巻型「教科書を開いて考えさせる授業」**のような、算数の教科書を活用する授業づくりでは、自力解決をどう捉えればよいのですか？

いわゆる問題解決の授業では、教科書を閉じさせることが多いのですが、**葛巻型「教科書を開いて考えさせる授業」**のように、算数の教科書を活用する実践も行われるようになっていきます。

授業者は、**指導方法の選択肢を豊かにもち、習得・活用・探究という学習プロセスの中で、**それぞれの指導方法のメリットとデメリットを踏まえて、教材や本時のねらい、子供の実態等に応じて選択できるようにしておくことが大切です。

また、「**複式学級で自力解決は何分かければよいのか？**」、「**自力解決をどう捉えればよいのか？**」という質問も耳にします。直接指導が限られる複式学級だからこそ、形式ではなく、授業を「**Before-After**」で捉え、例えば、**Afterをみる評価場面**と**Beforeをみる自力解決**と捉えるなどして、指導と評価の一体化を図り、学習活動が指導目標の達成にどう機能したかを重視したいところです。



<参考> <http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/images/library/File/shigoto/kyouiku/gakkou-kyouiku/h27-fukusikisidou-leaflet.pdf>



学力差が大きいときは、どう授業展開したら…？

<先生方の声から>

- ・児童の考えを多く取り入れ、たくさん表現させたいのですが、定着問題の時間が少なくなってしまう。少人数でも、**学力差が大きい**と、テンポよく展開できないと思うのですが…。

複式学級の指導では、学力差が授業展開へ影響しやすい面があり、大きな課題となっているようです。授業づくりを、ユニバーサル・デザインで考える実践が進められているように、**子供たちにはさまざまな個人差があって当然**というスタンスで捉えてみるのが大切です。

例えば、前半の自力解決等をシンプルに扱い、**習熟や評価等の時間**を十分にとることが考えられます。学力差が大きいときこそ、テンポのよい展開が有効かもしれません。上位の子供には、活用や探究課題に取り組みさせてもよいでしょう。また、教科書を開いて、子供なりに**見通し**をもって安心して学習できるようにしたり、教材・教具等を工夫して**体験的に**学習する活動を取り入れ、子供が実感を伴って理解できるようにしたり、**協働的に**学習できるようにしたりすることも考えられます。

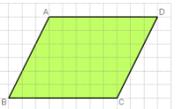
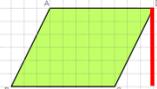
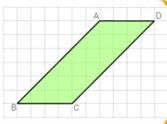
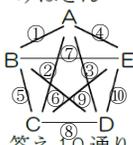


- ・江川小学校の実践では、教科書に書き込む**自力解決**から、約30分でまとめ、習熟問題等で**学力差**に対応しながら「**Before-After**」で指導と評価の一体化を図っています。
- ・児童の**振り返り**の記述から、**共通導入・共通終末**により、両学年共に「**わり算の性質**」を意識して理解できていることが読み取れます。

実践事例5 (算数5,6年)

- ・第5学年：面積の求め方を考えよう（東京書籍「新しい算数5下」P.35～37）
- ・第6学年：順序よく整理して調べよう（東京書籍「新しい算数6」P.159～161）

教科書を開いて活用させることにより、テンポよく展開します。**考えがいのある課題**で、等積変形の考えで学習を振り返って、平行四辺形の面積公式の意味理解を深めたり、高等学校で学習する順列・組合せを意識して探究的に取り組んだりできるようにします。

段階	第5学年	授業者	第6学年																																								
導入	<p>2 前ページのかおりさんの考えをもとにして、右の平行四辺形ABCDの面積を計算で求めましょう。</p> 		<p>1 A, B, C, Dの4つのチームで、バスケットボールの試合をします。どのチームも、ちがったチームと1回ずつ試合をするとき、どんな対戦があるか調べましょう。</p>																																								
展開	<p>【学習課題】【指導目標】 平行四辺形の面積を求める公式をつくろう。</p> <p>(ボールくん) 「たての長さと同じ部分を、上の図に線をひいて表してみよう。」</p>  <p>「これも6cmだけど、これも『高さ』っていうのかな？」 ・平行四辺形の外だから、「高さ」とは合わない。</p> <p>2 上の平行四辺形の面積を、底辺をBCとして計算で求めましょう。 ・$8 \times 6 = 48$ 答え48 cm²</p> <p>【まとめ】 平行四辺形の面積は、次の公式で求められます。 平行四辺形の面積＝底辺×高さ</p> <p>▲ 平行四辺形の面積を求めましょう。 ① $10 \times 6 = 60$ 答え60 cm² ② $15 \times 8 = 120$ 答え120 cm² ③ $9 \times 7 = 63$ 答え63 cm² ④ $7 \times 5 = 35$ 答え35 cm² 「④を、少しズラしたら？」 ・たてと横の長さは変わらないから、$7 \times 5 = 35$で同じ。</p> <p>【評価問題】 <知識・理解> 「▲の問題をやりなさい。」 ・$6 \times 3 = 18$ 答え18 cm² 考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>3 右の平行四辺形ABCDで、辺BCを底辺としたときの、面積の求め方を考えましょう。</p>  <p>(ゆみさん) 「しんじさんは、三角形ABCを動かして、高さが中にある平行四辺形FBCAに形を変えて…」 「ゆみさんの考えを、みんなも使ったんだけど…、どの問題だった？」 ・さっきの④で、ズラした問題!</p>		<p>・予想 12通り</p> <p>【学習課題】【指導目標】 落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</p> <p>★ Aの相手になるチームをいみましょう。また、B, C, Dの相手になるチームをそれぞれいみましょう。 ・Aの相手は、B, C, D。 ・B, C, Dの相手も、同じように3チームずつ。 「教科書のかおりさん、ひろきさん、みほさんの考えを読み取り、①～⑥の番号を付けて確かめましょう。」 ★ 4チームの対戦は、全部で何通りありますか。 ・6通りになった。</p> <p>【評価問題】 <考え方> 「A～Eの5チームだったら、全部で何通りか、かおりさんたちのように調べましょう。」</p> <p>(理由の説明) ・ひろきさん <table border="1" data-bbox="801 1183 933 1321"> <tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>A</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>B</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr> <tr><td>C</td><td>⑥</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td><td>⑩</td></tr> <tr><td>D</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 答え10通り ・みほさん  答え10通り</p> <p>【まとめ】 落ちや重なりがないように全部かぞえるには、表や図などを使って調べるとよい。</p> <p>「▲▲を考えてみましょう。」 ・アイスクリームの問題は、さっきの5チームの問題と同じだ。 ・ランチセットは12通り。 ・4人のリレーは24通り。 考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>リレーの問題で、2人1チームなら2通り。では、5人1チームなら、リレーの順序は、何通り？ <table border="1" data-bbox="815 1597 1153 1721"> <tr><td>リレーの人数</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>起る順序</td><td>2</td><td>0</td><td>24</td><td>0</td></tr> </table> </p> <p>「簡単な計算で求められますよ。」 「でも、ここで使うきまりは、高校生で学習する内容なんだよね…」</p>		A	B	C	D	E	A	①	②	③	④	⑤	B	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	C	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	D						リレーの人数	2	3	4	5	起る順序	2	0	24	0
	A	B	C	D	E																																						
A	①	②	③	④	⑤																																						
B	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨																																						
C	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩																																						
D																																											
リレーの人数	2	3	4	5																																							
起る順序	2	0	24	0																																							
終末	<p>【学習の振り返り】 「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>	共通	<p>【学習の振り返り】 「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>																																								

・分かっている子供がいれば、公式はすぐ明らかにする。

・吹き出しをもとにして、教科書の空らんりに直接書き込ませる。

<布石①>
・後半の考えがいのある課題へ。

・ここまで約15分。

<布石②>
・後半の考えがいのある課題へ。

・教科書の書き込みやノートの記述でみとる。

・次時の内容を、発展的に取り上げる。

<布石③>
・この発問で、学習を振り返り、意味理解を深める。

・学習課題は、とりあえず、教科書のとおり。

・教科書の空らんりに直接書き込ませる。

・同構造同内容の類題で、自力解決できるかをみる。

・2つ以上の考えで多様に調べさせる。

・問題の場面ではなく、数学的な構造に着目させる。

・探究的に取り組ませる。(できなくてよい)

【学習の振り返り】

・平行四辺形は高さで底辺を変えなければ、いくら傾けても面積は同じことがわかりました。

【学習の振り返り】

・組合せは、並べ方と同じように求めてたけど、樹形図を使って調べることができました。



黒板と座席，板書についての注意点はありますか？

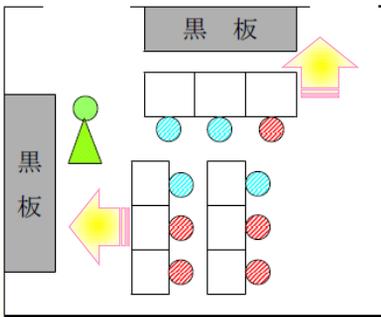
<先生方の声から>

- いつもは、**正面と横の黒板（移動黒板）**を使って別々に展開しています。**両学年が正面の黒板だと、板書がおさまらなくなる**と思うのですが…？
- 個々の学習を重視し、**子供の机を離すようにしていましたが**、「話し合い等がしやすいように、机をもう少し近づけたらどうか？」という意見もあり、**座席の配置**はどう考えたらよいのでしょうか？

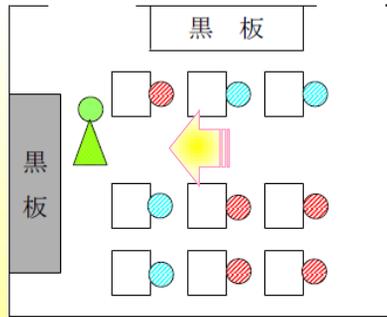
正面の黒板と別に、横や後ろの黒板や移動黒板を用いた授業がよく行われています。学校や教室のつくりによっても異なりますが、少人数のメリットを活かして子供の座席や並び方も様々に工夫されています。その際のポイントは、**それぞれの学習効果を十分に検証する**ということです。

両学年が正面黒板のみで学習するほうが、「**共通のねらいやまとめが理解しやすい。**」、「**学級としての一体感ができてよい。**」という意見もあります。この場合、教科書の活用やノート指導と合わせて、板書をより精選する工夫が求められます。また、学級経営の面や個別の学習活動の面などの理由から、子供の座席を離す場合も考えられますが、この場合は、子供どうしのかかわりを活かした間接指導の工夫などが求められます。

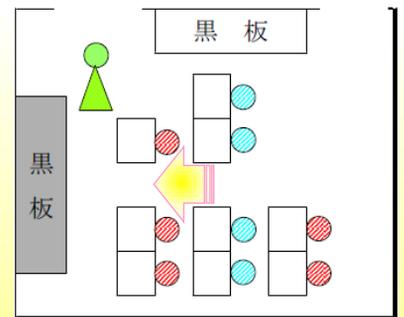
<2黒板・座席が近い例>



<1黒板・座席を離れた例>



<1黒板・座席が近い例>



<算数（5年：面積の求め方を考えよう，6年：順序よく整理して調べよう）の板書例（正面黒板）>

6年 落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう

予想 12通り

★1 ①A-B, ②A-C, ③A-D, ④B-C, ⑤B-D, ⑥C-D

Bは？
C, Dは？

教科書の3人の考えに，同じ番号をつけよう

★6 答え 6通り

A～Eの5チームだったら，何通り？
かおりさん・ひろきさん・みほさんの考えで

まとめ

落ちや重なりがないように全部かぞえるには，表や図などを使って調べるとよい。

★2 4人1チームで12通り。5人だったら何通り？

リレーの人数	2	3	4	5	高校生レベル？!
走る順序	2	○	12	○	

5年 平行四辺形の面積を求める公式をつくらう

平行にひくと，平行四辺形ができて，向かい合う辺の長さが等しくなる

「高さ」？

まとめ

平行四辺形の面積は，次の公式で求められます。
平行四辺形の面積＝底辺×高さ

★1 ④を少しズラしたら？

★1 しんじさんの図に，ゆみさんが言っているのは？

平行四辺形は，底辺と高さが同じなら，形が違ってても面積は変わらない。



- 大田代小学校の実践は、**1黒板・座席が近い**形で、教科書を活用し、上の板書例のように精選した提案授業です。しかも、子供のノートは問題数も豊富で、充実していました。
- 6年生が数値をアレンジした評価場面で多様に考えたり、5年生が高さの意味や等積変形の考えについて理解を深めたりできるように、学習活動を工夫しています。



実践事例6 (算数3,4年)

- ・第3学年：かけ算を考えよう（東京書籍「新しい算数3上」P.103～104）
- ・第4学年：およその数の表し方を考えよう（東京書籍「新しい算数4上」P.118～120）

教科書を開いて活用させることにより、テンポよく展開し、【評価問題】や考えがいのある課題などに時間をたっぷりかけます。授業者は、わたりを効果的に位置付け、児童の理解度を見取りながら豊富な問題数を扱い、学び合いを通して、説明する活動などに取り組めるようにします。

購	第3学年	授業者	第4学年
導	<p>1 1 mのねだんが312円のリポンを、3 m買います。代金はいくらですか。</p> <p>★ 式を書きましょう。 $312 \times 3 = 936$</p> <p>1 mのねだん × 買う長さ = 代金 $312 \text{円} \times 3 \text{m} = \square \text{円}$</p> <p>★ 計算のしかたをいみましょう。</p> <p>【学習課題】【指導目標】 312×3のような筆算のしかたを考えよう。</p>	<p>1 りくさんは、上の3つの町の人口を、下の絵グラフに表すことにしました。それぞれいくつぬればよいでしょうか。</p> <p>【学習課題】【指導目標】 きちんとした数をおよその数にする方法について考えてみよう。</p> <p>★ りくさんはA町の人口21034人を20000人としました。下の数直線を見て、そのわけを考えましょう。</p> <p>【まとめ】 21034は、20000に近いので、およそ20000とします。およそ20000のことを「約20000」ともいいます。また、およその数のことをがい数といいます。</p>	
入	<p>★ 理由の説明 312×3の筆算のしかたは「三二が6」で、一の位に6、「三一が3」で、十の位に3、「三三が9」で、百の位に9、あわせて936とします。</p> <p>★ 1の計算をしなさい。 ① 212×4 ② 231×3 ③ 432×2 ④ 341×2 ⑤ 203×3 ⑥ 310×2 ⑦ 420×2</p> <p>【評価問題】<数学的な考え方> 「②の筆算のしかたを、312×3と同じように説明しなさい。」</p> <p>★ 理由の説明 231×3の筆算のしかたは「三一が3」で、一の位に3、「三三が9」で、十の位に9、「三二が6」で、百の位に6、あわせて693です。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>★ 312×4、$\times 5$、$\times 6$、…を筆算で計算してみよう。</p> <p>★ 312×6だと、「六二12」で、一の位に2？「六一が6」で、十の位に7？ん？どう説明したらいいの？</p>	<p>★ りくさんはA町の人口21034人を20000人としました。下の数直線を見て、そのわけを考えましょう。</p> <p>【まとめ】 21034は、20000に近いので、およそ20000とします。およそ20000のことを「約20000」ともいいます。また、およその数のことをがい数といいます。</p> <p>★ 32756人、38412人はそれぞれ約何万人といえよいでしょうか。</p> <p>★ がい数にしたB町とC町の人口を前ページの絵グラフに色をぬって表しましょう。</p> <p>【評価問題】<知識・理解> 「32756を、30000にしたわけを説明しなさい。」</p> <p>・数直線でみると、30000のほうに近いから。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>【学習課題】【指導目標】 「がい数にしたとき、20000になる数をすべて選びなさい。」 ア 14500 イ 15000 ウ 19500 エ 24999 オ 25000</p> <p>・アは違う。ウ、エは20000になる。 ・イも、おも真ん中だから、どっちに近いともいえない…。 ・イを20000に近いというなら、オは30000に近いと考えないと…。</p>	
展	<p>【学習課題】【指導目標】 312×3のような筆算のしかたを考えよう。</p> <p>★ 理由の説明 312×3の筆算のしかたは「三二が6」で、一の位に6、「三一が3」で、十の位に3、「三三が9」で、百の位に9、あわせて936とします。</p> <p>★ 1の計算をしなさい。 ① 212×4 ② 231×3 ③ 432×2 ④ 341×2 ⑤ 203×3 ⑥ 310×2 ⑦ 420×2</p> <p>【評価問題】<数学的な考え方> 「②の筆算のしかたを、312×3と同じように説明しなさい。」</p> <p>★ 理由の説明 231×3の筆算のしかたは「三一が3」で、一の位に3、「三三が9」で、十の位に9、「三二が6」で、百の位に6、あわせて693です。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>★ 312×4、$\times 5$、$\times 6$、…を筆算で計算してみよう。</p> <p>★ 312×6だと、「六二12」で、一の位に2？「六一が6」で、十の位に7？ん？どう説明したらいいの？</p>	<p>【学習課題】【指導目標】 きちんとした数をおよその数にする方法について考えてみよう。</p> <p>★ りくさんはA町の人口21034人を20000人としました。下の数直線を見て、そのわけを考えましょう。</p> <p>【まとめ】 21034は、20000に近いので、およそ20000とします。およそ20000のことを「約20000」ともいいます。また、およその数のことをがい数といいます。</p> <p>★ 32756人、38412人はそれぞれ約何万人といえよいでしょうか。</p> <p>★ がい数にしたB町とC町の人口を前ページの絵グラフに色をぬって表しましょう。</p> <p>【評価問題】<知識・理解> 「32756を、30000にしたわけを説明しなさい。」</p> <p>・数直線でみると、30000のほうに近いから。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>【学習課題】【指導目標】 「がい数にしたとき、20000になる数をすべて選びなさい。」 ア 14500 イ 15000 ウ 19500 エ 24999 オ 25000</p> <p>・アは違う。ウ、エは20000になる。 ・イも、おも真ん中だから、どっちに近いともいえない…。 ・イを20000に近いというなら、オは30000に近いと考えないと…。</p>	
開	<p>【学習課題】【指導目標】 312×3のような筆算のしかたを考えよう。</p> <p>★ 理由の説明 312×3の筆算のしかたは「三二が6」で、一の位に6、「三一が3」で、十の位に3、「三三が9」で、百の位に9、あわせて936とします。</p> <p>★ 1の計算をしなさい。 ① 212×4 ② 231×3 ③ 432×2 ④ 341×2 ⑤ 203×3 ⑥ 310×2 ⑦ 420×2</p> <p>【評価問題】<数学的な考え方> 「②の筆算のしかたを、312×3と同じように説明しなさい。」</p> <p>★ 理由の説明 231×3の筆算のしかたは「三一が3」で、一の位に3、「三三が9」で、十の位に9、「三二が6」で、百の位に6、あわせて693です。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>★ 312×4、$\times 5$、$\times 6$、…を筆算で計算してみよう。</p> <p>★ 312×6だと、「六二12」で、一の位に2？「六一が6」で、十の位に7？ん？どう説明したらいいの？</p>	<p>【学習課題】【指導目標】 きちんとした数をおよその数にする方法について考えてみよう。</p> <p>★ りくさんはA町の人口21034人を20000人としました。下の数直線を見て、そのわけを考えましょう。</p> <p>【まとめ】 21034は、20000に近いので、およそ20000とします。およそ20000のことを「約20000」ともいいます。また、およその数のことをがい数といいます。</p> <p>★ 32756人、38412人はそれぞれ約何万人といえよいでしょうか。</p> <p>★ がい数にしたB町とC町の人口を前ページの絵グラフに色をぬって表しましょう。</p> <p>【評価問題】<知識・理解> 「32756を、30000にしたわけを説明しなさい。」</p> <p>・数直線でみると、30000のほうに近いから。</p> <p>考えがいのある課題に取り組む。</p> <p>【学習課題】【指導目標】 「がい数にしたとき、20000になる数をすべて選びなさい。」 ア 14500 イ 15000 ウ 19500 エ 24999 オ 25000</p> <p>・アは違う。ウ、エは20000になる。 ・イも、おも真ん中だから、どっちに近いともいえない…。 ・イを20000に近いというなら、オは30000に近いと考えないと…。</p>	
終末	<p>【学習の振り返り】 「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>	<p>【学習の振り返り】 「今日の授業で、分かったことや分からなかったことなどを書きましょう。」</p>	

教科書の空らんに直接書き込ませる。

求められる子供がいれば、答えはすぐ明らかにする。

教科書のひっ算のしかたに加筆し、説明モデルにする。

教科書の計算問題を、考え方の評価問題にする発問。

各自のノートの記述でみとり、一斉に読ませる。

導入問題のかける数をアレンジして次時へつなげる。

教科書の空らんに直接書き込ませる。

教科書の問題を、知識・理解の評価問題にする発問。

H25全国学調A2 (県60.6%)

四捨五入の問題を取り上げ、次時へつなげる。

共通終了

【学習の振り返り】

- ・今日は分かったことは、位をわけて計算することが分かりました。
- ・ひっ算のたすところと、せつめいするところがむずかしかったです。

【学習の振り返り】

- ・今日は、どちらも同じ数かなという勉強をして近い方を選ぶことが分かりました。
- ・15000を20000にしたなら、25000は同じように30000とみることが分かりました。



両学年の内容をどう組み合わせればよいですか？

<先生方の声から>

- ・新しい単元の学習に入るときなど、**一方の学年だけじっくり直接指導したい**と思う場合があるのですが、その際、もう一方の学年の指導はどうしたらよいでしょうか？

すべての時間で、共通のねらいを設定して、**類似単元指導**のために内容を組み合わせようとしても無理が生じることがあります。そういう意味では、異内容を組み合わせた**学年別指導**のほうが自然かもしれません。その際も、複式学級の指導では、両学年の子供が主体的に学習できるように配慮し、それぞれの本時の指導目標を達成できるようにすることが大切です。

また、1単位時間の授業レベルだけでなく、単元レベルで考えることもできます。教科の特質や学習内容、児童の実状等に応じて、校内で適切にマネジメントすることが大切です。その際、単元末のテストなどと組み合わせることも考えられます。

下の例のように、各学年の**単元の学習計画を立てる時間（第3学年の第2時、第4学年の第4時）**で直接指導できるようにするために、単元計画に「**ずらし**」を位置付けることも考えられます。

<国語科（3，4年）【C 読むこと】の単元計画の例>

	第3学年	第4学年
教材名	「ちいちゃんのかげおくり」（光村図書3年下）	「ごんぎつね」（光村図書4年下）
主な目標	◎ 場面の様子に気を付けながら、場面と場面とを関係付けて、登場人物の気持ちや情景などについて想像しながら読むことができる。（Cウ）	
言語活動	「とっておきカード」で自分の感想や考えをまとめる。	リーフレットで、新美南吉の作品のよさを紹介する。
1	○ 新美南吉の作品や「戦争と平和」をテーマにブックトークを行い、テーマに対する感想をもつ。	
2	○ 今回学習する「とっておきカード」について教師自作のモデルを提示し、カードに表す内容（読む観点）を知り、 学習計画を立てる 。※以下、並行読書	○ 新美南吉の作品をいろいろ読み、作品の大まかな内容を短くまとめる。 ○ いろいろな作品の中から、自分が紹介したい本についてベスト3を決める。
3	○ 教材文を読み、自分の感想をもつ。物語にびったり合うと思うカードの台紙の色を選ぶ。かげおくりが出てくるころを比べて読む。	
4	○ 場面の移り変わりを確かめながら全体を読み直し、物語の中で変わっていくものをとらえる。（読みの視点…①主人公、②家族、③状況、④題名に象徴されているもの：かげおくり）	○ 教師自作のごんぎつねのリーフレットをもとに、紹介する観点（登場人物の設定と関係性、場面状況、登場人物の気持ちの変化、作品のよさやおすすめポイント）についてとらえ、 学習計画を立てる 。
5		○ ごんぎつねの人物設定や場面状況をとらえ、自分が紹介したい本ベスト1に適用して読み、登場人物の設定や場面状況についてリーフレットにまとめる。
6	○ 初めの感想や物語の一番心に残ったところを捉え直し、叙述や場面展開を根拠にしながら、心に残ったわけや自分の思いを「とっておきカード」にまとめる。（心に残ったところ、その根拠、自分の思い）	○ ごんぎつねや自分が紹介したい本ベスト1の登場人物の関係性やクライマックス前後の気持ちの変化を読み、リーフレットにまとめる。
7	○ 自分の選んだ本について、①主人公、②家族、③状況、④題名の観点で読み直してまとめる。	○ リーフレットを一通り書き上げ、読み返して作品のよさや自分のおすすめポイントを紹介するために必要な部分の引用部分を考え、取り入れる。
8	○ 自分が選んだ本について、一番心に残ったところを、根拠を明確にしながら「とっておきカード」に書き表す。	○ 仕上げたリーフレットを学年内で読み返し、互いのよさを出し合い、それぞれの作品を通して新美南吉が伝えたいことを考える。
9	○ 3年生と4年生でとっておきカードや紹介リーフレットを聞き合い、感想交流をする。	



- ・橋場小学校の実践は、**異内容**の学年別指導で、子供が教科書を活用して自学自習に取り組む様子を「**わたり**」により見取り、学習状況に応じて**直接指導**を位置付けた提案授業です。
- ・**考えがいのある課題**として、**次時の内容**や**全国学調の問題**を取り上げ、次時への意欲を高めたり子供の理解が深まったりするように工夫しています。

協力校（事例順）

久慈市立小袖小学校（授業提供）
山田町立轟木小学校（会場提供）
洋野町立角浜小学校（授業提供）
葛巻町立江刈小学校（授業提供）
奥州市立大田代小学校（会場提供）
雫石町立橋場小学校（会場提供）

指導協力（事例順）

久慈市教育委員会 指導主事 小森 篤
宮古教育事務所 主任指導主事 佐々木哲也
県北教育事務所（洋野町）指導主事 渡邊 康二
盛岡教育事務所 主任指導主事 高橋 長兵
県南教育事務所（奥州市）指導主事 吉田 博昭
盛岡教育事務所（雫石町）指導主事 西村 蘭子

参考文献

平成26年度版 複式学級の特質を生かした 学習指導のすすめ方ガイド
（岩手県立総合教育センター）平成27年2月

http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryou/h26/h26_1405_2.pdf

葛巻町授業力向上プランの挑戦 葛巻型小規模・複式指導リーフレット
～ 教科書を開いて考えさせる授業【算数・数学科】～
（葛巻町教育センター）平成27年3月

<http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/images/library/File/shigoto/kyouiku/gakkou-kyouiku/h27-fukusikisidou-leaflet.pdf>

南北600kmの教育～へき地・複式教育の手引き～
（鹿児島県教育委員会）平成26年3月

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/hekichi/tebiki/nanboku.html>

これだけは知っておきたい へき地教育ハンドブック
（全国へき地教育研究連盟）平成7年8月

小学校複式学級指導資料 算数編（文部省）昭和55年6月



岩手県教育委員会事務局学校教育室

<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/003306.html>